



文書館資料

武芸・体育・スポーツと



➤ 24

「小学読本巻一（明治6年版）」（教科書文庫明治6-9）

たのしむ ⑤

近代スポーツの移入（野球）

《わが国における野球のはじまり》

野球は、明治時代の初めに、お雇い外国人によってアメリカからもたらされ、学校を中心に広まりました。明治4年(1871)、東京開成学校予科の教師であったホーレス＝ウィルソンが生徒に教えたのがその最初と言われています。

上の写真は、明治6年2月に刊行された『小学読本 巻一』です。これはアメリカで国語の教科書として使われていた『ウィルソン・リーダー』を翻訳したもので、日本の小学校の国語の教科書としては草創期のものの一つです。その中に、子どもたちが野球をして遊んでいる場面があります。『ウィルソン・リーダー』では、「ピッチャー」、「バッター」、「キャッチャー」、「野手」などが分かるように描かれていますが、『小学読本 巻一』のこの絵では、銘々がバットらしきものを手に持ってボールを打って遊んでおり、とても野球をやっているようには見えません。当時、野球はまだ一般的ではなく、翻訳

者は『ウィルソン・リーダー』の挿絵を見ても、野球の場面を思い浮かべることができなかったのでしょうか。



「小学読本 巻一（明治7年版）」
（河崎家文書1763）

ところが、翌明治7年8月刊行の『小学読本 巻一』の同じ場面を見ると、少し野球らしく描かれています。野球についての認識が広がりつつあったのかもしれませんが。そうは言っても、やはり画面の奥の方では、バットのような棒を持ち、銘々、遊んでいる姿が見られますが…。

いずれにしても、この教科書により、全



「亀井茲常の野球の
ユニフォーム姿」
（松元淳収集文書646）

明治35年5月撮影。亀井茲常（これつね）は旧津和野藩主亀井家第14代当主。18才の時のもの。左手にバットとボールを持ち、胸には「T・B・C」をあしらったマークが見えます。ボールには「1902」（＝明治35年）の文字が入っており何かの記念ボールかもしれません。

国の子どもたちは、「ボールをバットで打つ遊び」を初めて知ったことでしょう。

《野球の普及》

『山口高等商業学校沿革史』によると、明治10年代には、すでに山口中学校でベースボールが行われていたようです。これは全国的に見ても早い時期の普及と言えます。明治19年（1886）、中学校令に基づき山口高等中学校が設立されますが、この時、山口中学から引き継がれた物品の中にも「ベース五個、ボール拾個、打球棒二本」とあり、これらの道具を使ってベースボールが行われていたことが確認できます。しかし、まだ技術は未熟で、「投手は魔球（変化球のこと）の何物たるかを知らず、捕手もミットを用いない状態」で行われていたようです。ちなみに、アメリカでも当時はピッチャーはソフトボールのように下から投げ、バッターはピッチャーに対して、球の高低を指定するなど、打ちやすい球を要求することができました。オーバーハンドでの投球が解禁されたのが明治17年）、バッターがピッチャーにコースの要求ができなくなったのが明治20年でした。このように、山口中学校の生徒たちが初めてベースボールを楽しんだのは、野球が現在の形へと様変わりしていく最中のことでした。

「山口高等中学校」から「山口高等学校」に校名を改称した明治27年、齋藤恭三ほか数名が第二高等学校から転校し、野球について新技術を伝えました。これをきっかけにして、山口県で本格的に野球が行われるようになります。

ちなみに中馬庚（ちゅうま かのえ）がベースボールを「野球」と訳したのが明治27年、そして我が国初の野球研究書『野球』を著したのが明治30年のことです。

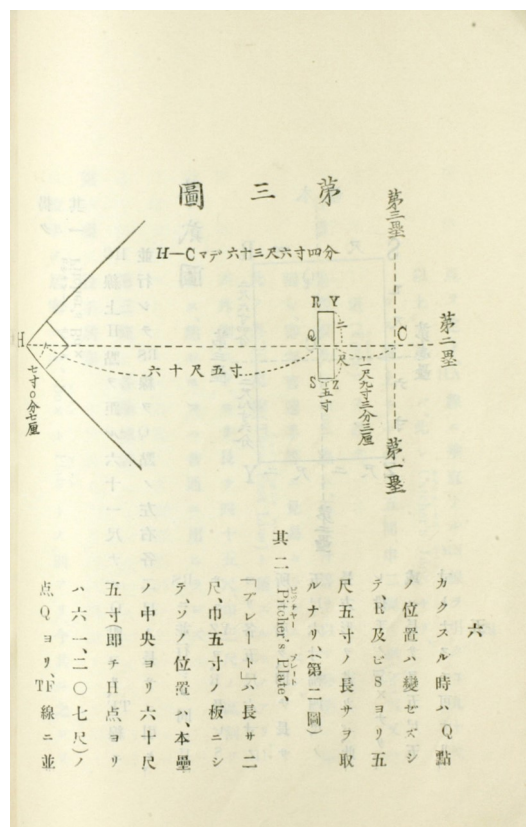
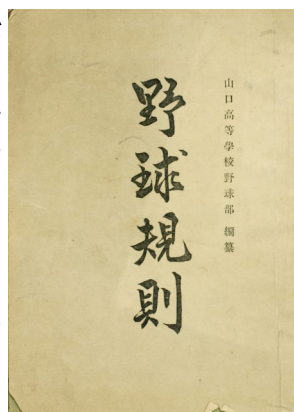
《ルール統一》

山口県内では明治30年前後から野球が盛んになっていきますが、当初、ルールがまちまちで混乱を生じていたようです。右の写真は、県内の野球ルールを統一するため、山口高等学校野球部が明治32年（1899）に定めた『野球規則』です。球場の規定や用具、野球用語の解説、投球規則、打撃規則、審判のコールの仕方などについて図を用いて解説しています。現在のルールとほぼ同じですが、中にはボールが草むらや溝に入って紛失した時のロストボールの措置や「ファイブボールズ」（←現在は「四球」＝「フォアボール」ですが当時は4～9の間で、随意に決めてよいことになっていました。この『野球規則』で山口県内ではファイブボールズに統一されています。）など、興味深いローカルルールもあります。また、現在、日本ではバ

ントを多様した緻密な野球が行われていますが、「バントヒット」の項では「打手故意ヲ以テ柔カニ棒ヲ揮（ふ）リ、卑劣ナル打方ヲナセシヲ云フ」とあり、バントヒットはあまり奨励されていなかったようです。

このルールブックが配られたのは山口中学校（本校）、山口中学校萩分校、佐波郡周陽中学校、山口中学校徳山分校、山口中学校岩国分校、山口県師範学校、赤間関商業学校、広島県広島第壹中学校、山口中学校豊浦分校で、これらの学校で、当時、野球が行われていたことがわかります。巻末に質問用紙が付されており、ルールについて不明な点を問い合わせることができるようになっていました。

明治36年に山口高等学校主催の中学校の野球大会が始まり、大いに盛り上がることになりました。



「野球規則」（安部家文書1036）

ピッチャーのプレートの位置が、ホームベースの中心から60尺5寸と、尺貫法できりの良い数字で定められています。そのため、ホームベースの先端からプレートまでの距離が61.207尺（＝18.54メートル）となり、本来の60フィート6インチ（＝18.44メートル）とわずかにズレが生じています。